



会場の町公舎軒下には色とりどりのかわいらしい飾りが目を引く

見て触れて 心に響く木の温もり

▼『木のお雛さま』 あらいみえこ追悼展／小黒三郎・若林孝典作品展

「木のおもちやづくりが盛んな町は全国でも珍しい」
プロの作家がそつ話す日野町で、
4回目となる『木のお雛さま』展が開かれました。

木で作られたお雛さまやおもちやに触れてもらおうと、
2月21日から23日までの3日間、根雨の町公舎を会場に『木のお雛さま』あらいみえこ追悼展、小黒三郎・若林孝典作品展（「木のお雛さま」実行委員会主催）が開かれ、県内外からおよそ300人が訪れました。

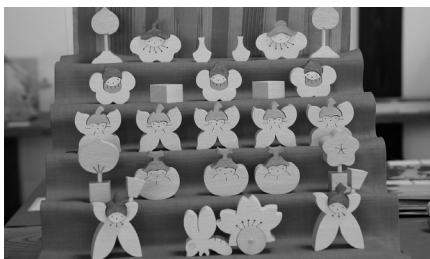
町公舎は明治初年の建築といわれ、古民家のたたずまいが残る建物。その雰囲気がある木のお雛さまやおもちやの展示に調和し、来場者の心を和ませます。

今回作品を展示したのは、組み木デザイナーの小黒三郎さん（岡山県倉敷市）、おもちや作家の若林孝典さん（岡

あらいさんの木彫り雛が並ぶ



かわいい組み木の雛



小黒さんの実演風景



若林さんの体験教室の様子



組み木やおもちゃ、木彫りの作品が展示された会場



どれもかわいいと見入る



大人も楽しい木のおもちゃ



あらいさんの作品「オシドリ」



赤ちゃんも夢中になる仕掛け

山県美作市」と、木彫家のあらいみえこさんです。

この催しは、1987（昭和62）年から6年間、あらいさんが日野町に住んでいた縁で企画され、今年4回目の開催となりました。今回は、昨年2月に亡くなったあらいさんの追悼作品展として、会場の一角に設けられたあらいさんをおぶコーナーには、親交のある人らが思い出の作品を持ち寄り展示し、思い出話に花を咲かせたほか、「体を大切に」「また会えるのを楽しみにしています」などとメッセージが書かれ、病床のあらいさんへ贈られた手縫いのタペストリーも展示されました。木彫りの優しさあふれる作品に来場者からは「作者の人柄が伝わる作品」と、笑みがこぼれました。

ました」と振り返り、「組み木は糸のこを使い子どもたちも楽しめるもの。ここで実演すると、やってみたい人も出てくるだろう」と、木のおもちゃの広がり期待しました。来場者は、恒例となっている小黒さんの糸のこ実演に見入り、次々と生まれる動物の組み木に目を輝かせ、創作活動について意見を交しました。

会場には時計やランプなど、若林さんの精巧な木のおもちゃで遊ぶ来場者の歓声に「木のおもちゃの予想できない動きが狙いで、笑顔がイメージして作っているんですよ」と若林さんはうれしそうに話しました。

また、会場では小黒さんの組み木や若林さんのおもちゃづくり体験教室も開かれ、多くの参加者が木のおもちゃづくりにふれたほか、スタンプが手作りの甘酒や抹茶をたてて来場者をおもてなし。ゆっくり会話を楽しむ姿が見られました。